

## 世界最大の化粧品学術大会

### 25th IFSCC Conference on 2019 ミラノ大会で発表

#### カルボニル化タンパクが皮膚保湿機能に与える影響とリンゴポリフェノール（AP）の効果について

ちふれホールディングス株式会社（本社：埼玉県川越市、代表取締役社長：片岡 方和）は、かねてよりリンゴポリフェノール（AP）の皮膚に対する抗光老化効果について研究しております。この度、同研究の一環で、カルボニル化タンパクが皮膚保湿機能に与える影響とリンゴポリフェノール（AP）の効果について、2019年9月30日（月）から10月2日（水）にイタリアのミラノで開催される世界最大の化粧品学術大会 25th IFSCC\* Conference on 2019で発表いたします。

なお、詳細につきましては、学会での発表後、お知らせさせていただきます予定です。

\* The International Federation of Societies of Cosmetic Chemists(国際化粧品技術者会連盟)

---

#### ■ご参考/これまでの主な研究成果等について <★……リンゴポリフェノールに関する研究>

- 2014年 日本農芸化学会2014年度大会（2014年3月27日（木）～30日（日））において、「皮膚の光老化に対する植物ポリフェノールの作用」について、東京工科大学 応用生物学部 正木仁教授との共同研究成果を発表 ★
- 2015年 日本薬学会第135年会（2015年3月25日（水）～28日（土））において、「皮膚の光老化に対するリンゴポリフェノールの作用」について、東京工科大学 応用生物学部 正木仁教授との共同研究成果を発表 ★
- 2016年 日本薬学会第136年会（2016年3月26日（土）～29日（火））において、「リンゴポリフェノールの表皮カルボニル化タンパク生成抑制作用」について、東京工科大学 応用生物学部 正木仁教授との共同研究成果を発表 ★
- 日本薬学会第136年会（2016年3月26日（土）～29日（火））において、「UVB照射ケラチナサイトを介したレスベラトール美白メカニズム」について、日本医科大学 皮膚科 船坂陽子教授との共同研究成果を発表
- 2017年 日本薬学会第137年会（2017年3月24日（金）～3月27日（月））において、「メラニン分析を用いたアルブチンとアスコルビン酸グルコシドの併用による美白効果亢進作用の検証」について、藤田医科大学医療科学部化学教室の伊藤祥輔名誉教授、若松一雅特任教授との共同研究成果を発表
- 2018年 第43回日本化粧品学会（2018年6月29日（金）～30日（土））において、「細胞外カルボニル化タンパクの表皮細胞トランス グルタミンナーゼ-1発現抑制」について、東京工科大学 応用生物学部 正木仁教授との共同研究成果を発表
- 2019年 皮膚の光老化に対するリンゴポリフェノールの作用  
「Cyr61発現抑制剤」に関する特許を取得 ★
- 

当社は、今後もお客様のニーズにお応えできるよう、研究・開発を重ねてまいります。